



平成9年2月25日

青森県教育庁文化課

三内丸山遺跡対策室

〒030 青森市新町2丁目3-1
TEL (0177) 22-1111 (内5251・2)
FAX (0177) 77-5077

三内丸山遺跡対策室 松原分室

〒030 青森市松原1丁目14-11
TEL (0177) 74-0455
FAX (0177) 74-0456

三内丸山通信

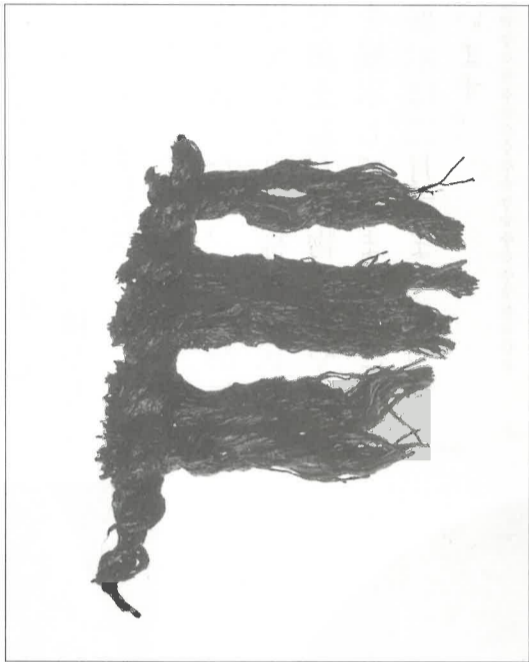
さる一月十五日（水曜日）、東京有楽町朝日ホールで三内丸山遺跡・縄文シンポジウム'96が行われ、多くの方々が無心に耳を傾けました。東京では、昨年度の吉野ヶ里遺跡との合同シンポジウムについて二回目になります。

第一部は最新情報提供として、今年度の発掘調査の概要がスライドを使いながら報告されました。次に、小山田吉孝さん（地研コンサルタント）から、「地盤工学が解明する巨木木柱の謎」として、注目されている六本の巨大木柱について

科学が解き明かす縄文の世界

縄文の森を考える

三内丸山遺跡
縄文シンポジウム'96



編布（あんぎん）出土

昨年十一月、平成五年に採取した第6鉄塔地区（沖館川に面した北斜面）の泥炭層に含まれている微細な遺物の選別をおこなった

わかりました。編布は一本の緯糸（よこいと）に二本の経糸（たていと）を絡ませて作る布です。今回発見されたものは、

ているとき、種子や魚骨などに混じっている小さな編み物を発見しました。

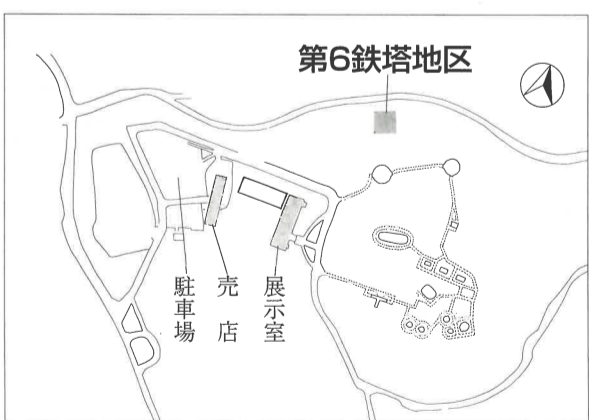
縄文時代の布に詳しい、尾関清子東海学園女子短期大学名誉教授によると、編布（あんぎん）であることが

て、土壌分析の結果から、高さが二十メートル以上ある大型建物の可能性が高いことが報告されました。さらに及川昭文さん（総合研究大学院大学）からは、コンピュータを利用した、土器の容量の推定、石器の空間分布、遺跡の分布などの研究成果についての報告がありました。

第二部は辻誠一郎さん（国立歴史民俗博物館）をコーディネーターに、パネラーの佐藤洋一郎さん（静岡大学）、鈴木三男さん（東北大学）、山田昌久さん



（東京都立大学）、西本豊弘さん（国立歴史民俗博物館）らによって、それぞれの専門分野から縄文人の生活にとって重要であった森について討論が行われました。その中で、様々な科学的な分析結果から当時の三内丸山遺跡の自然環境を復元し、縄文人が森に積極的に働きかけ、クリの栽培などが計画的に行われていたことが考えられました。



体験学習館ができました

十二月上旬、展示室の西側に体験学習館が完成しました。広さは三四〇平方メートルほどで、約百二十人が一度に利用できます。中には洗い場、トイレ、冷・暖房などの設備があり、天



候に左右されず、一年を通して体験学習を行うことができます。同時に第二展示室もでき、来年度にはオープンする予定です。来年度も体験学習を行います。縄文人の生活や技術に触れてみませんか。参加をお待ちしています。



情報展

『ヒョウタン』から



昨年十一月末からはじまった情報展は、湿地で採取した土とそこから出土した植物の実や種についてとりあげました。

石器、昆虫の破片、サナギ、虫の卵、植物の実や種などを展示しました。

縄文時代前期(約五千五百年前)の泥炭層の土の水洗、選別の方法や、取りあげられた動物・魚の骨、鱗(うろこ)、木製品、土器、

また、炭化したり、破片であったり、一部が欠けていたりと同様な状態で出土した植物の実や種を展示しています。この展示は二月末まで行っています。

体験学習

編布(あんぎん)作りに挑戦

昨年十二月十四日に、新しく完成した体験学習館で『編布作り』が行われました。

出土したいろいろな編み物を参考に、編み具を使っ



体験学習風景

青森市内に在住の小田ミツエさんは、和裁学校の友人と三人で参加しました。「今回が初めてですが、とても楽しいです。初めは難

て作ります。



土の選別作業

遺跡から大人と子供の墓がみつかっています。子供は、遺体を土器に入れて埋葬したようです。その多くが竪穴住居のそばに作られています。これまでに約八八〇基ほど見つかり、特に縄文時代中期前半

連載「第二回」

お墓

(およそ五千年から四千五百年前)のものが圧倒的に多いようです。数が多いことから、子供にとつて厳しい環境であったと考えられます。

大人は地面に楕円形の穴を掘って埋葬したようです(土坑墓)。土坑墓は同じ方向を向き、列をなすように作られています。列は道路をはさんで南北二列で、底の部分が互いに道路に向かつて低くなっています。この墓の列は、縄文時代前期末から中期(およそ五千年から四千年前)のもので、これまでの調査で約三三五メートル以上延びていることが判明しています。

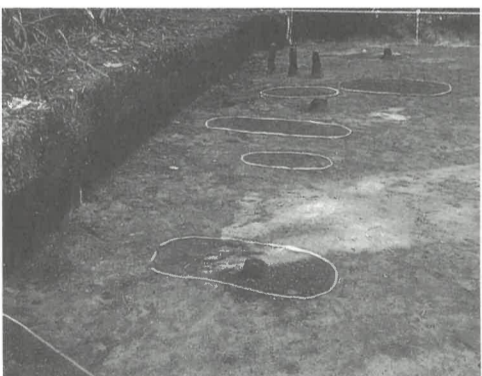
これらから、墓を作るときに位置や方向にルールがあり、長期間にわたって守られたことがわかります。



昨年12月21日(土)から今年1月5日(日)まで、平成7・8年度予定で実施してきた三内丸山遺跡の短期整備がおおむね終了したことを記念して、大型掘立柱建物がライトアップされました。

しく感じましたが、慣れてくると簡単です。スミスゴ(炭俵)の作り方に似ているかしたら。植物から糸をとって、衣服をつくるなんて縄文人は頭が良かったんですね。」

「前にポシエット作りに参加しましたが、今回もおもしろくて、はまってしまいました。編み方を呑み込むまではむずかしいですが、その後は簡単でした。」とそれぞれ感想を語ってくれました。



土坑墓列

情報展

平成八年度の発掘調査から

三月一日からの新情報展では、平成八年度に行つた第五〜七次調査の成果を紹介します。

第五次調査で出土した土器、石器、土偶、第六次調査で出土した骨刀や縄文人の歯、第七次調査で長さ三・五メートル以上と確認された土坑墓列の配置図や写真などを展示します。

三内丸山遺跡の「あんない」

- 見学時間 9:00~16:30 (入場は16:00まで) (ボランティアガイドの定時説明は昨年11月30日をもちまして終了しました。今年は、四月一日(火)より定時解説を再開いたします。)
- 休館日 年末年始
- 交通手段 市営バス 青森駅から運転免許センター行き 三内丸山遺跡前下車 園路は除雪を行っていますが、歩きやすい靴をおこしください。
- その他